

第3回香川地域継続検討協議会 議事録

【日 時】 平成24年12月27日(木) 13:00～14:30

【場 所】 香川大学幸町キャンパス 研究交流棟5階 研究者交流スペース

〈配布資料〉

- [資料1] : 議事関係資料
- [資料2] : 地域インパクト分析(DIA)システムの概要
- [資料3] : 第2回香川地域継続検討協議会 議事録
- [資料4] : 香川地域継続検討協議会 第3回勉強会
- [資料5] : 香川地域継続検討協議会 第4回勉強会

〈議事内容〉

1. 趣旨説明

香川大学危機管理研究センター長 白木教授より、香川地域継続検討協議会の趣旨説明を行った。

2. 協議会規約、構成員の確認

協議会規約、構成員の改訂は特になし。

3. 議事

(1) 協議会運営報告

香川大学危機管理研究センター 磯打特命准教授より、資料3を用いて第2回香川地域継続検討協議会の議事要旨の説明があった。また、資料4、5を用いて勉強会の意見交換内容について報告があった。

(2) 年度計画

香川大学危機管理研究センター 磯打特命准教授より、資料1を用いて年度計画についての説明があった。また、香川大学危機管理研究センター 高橋特命助教より、資料2を用いて地域インパクト分析(DIA)支援システムの概要の説明があった。

各委員の意見は以下のとおりである。

○意見交換

＜西日本高速道路株式会社＞

- ・所管道路の被害想定の見直しを実施中であり、その結果を受けて、啓開のための要員、物資を整理する予定である。見直しが完了すれば、データを提供することは可能である。

＜会長＞

- ・データをいただければ、地域の重要度分析及び回復状況の提示に利用したい。

＜四国ガス＞

- ・大変有用なシステムであると思うが、発災後に情報を入力することは難しいと考える。

＜会長＞

- ・地域の回復戦略を立案する際に、客観的に地域の重要度を分析することに利用できると考えている。

＜NTT ドコモ四国支社＞

- ・DIA支援システムから電力、道路、避難所の情報を入手したいと考えている。

＜香川経済同友会＞

- ・香川県の地域特性として昼夜人口の差があり、このため、発災時間帯によって被害想定が異

なる。

<会長>

- ・被害想定の違いについては認識している。企業（業種ごと）の各地域に対する復旧ニーズ等についても、データがあればいただきたい。

<香川経済同友会>

- ・現在、そのようなデータについては把握していないが、今後、委員会等で各企業のニーズを調査することは可能であると考ええる。

<坂出市>

- ・システムの利用フェーズは、人命救助段階なのか、復旧・復興段階なのか明らかにしていただきたい。
- ・比較要因の優先度評価は、トップや組織の判断や意志決定事項となるため難しいと考える。
- ・東日本大震災、阪神大震災等の既往災害で、ケーススタディを実施いただきたい。

<会長>

- ・被災状況はいくつかのパターンを設定する予定である。
- ・優先度を固定してしまうのではなく、各組織における優先度評価の議論のベースになれば、よいと考えている。
- ・既往災害のシミュレーションについて、実施予定である。

<高松市上下水道局>

- ・システム上で、時系列の変化を視覚的にシミュレーション可能か。
- ・昼夜人口の違いも含め、住民の情報は地図上に表示可能か。
- ・今年度のDCP策定範囲は、どの範囲か。

<会長>

- ・DCP策定範囲として、まずは、高松地域を対象とすることを予定している。
- ・システムは、あくまで議論のベースとなるものであり、すべての情報のシステム化を目的としているわけではない。現状では、2次元地図に時系列の変化を持たせることをイメージしている。ある要因の変化による、別の要因の変化についてもシミュレーション可能である。

<高松市総務局>

- ・計画の策定も重要であるが、災害時の実効性を向上させるためのツールであることを意識して実現して欲しい。

<会長>

- ・個人が初動の災害対応行動を判断するのに役立てられるものになりたいと考えている。

<香川県土木局>

- ・災害時には、緊急輸送道路の啓開がもっとも重要であると考えており、そのコンセンサスを得るためにDIA支援システムを活用できると考える。そのためにも、将来的には詳細なシミュレーションができるようになればよいと考える。
- ・道路網については、緊急輸送道路のみ表示した方がわかりやすい。

<会長>

- ・各組織における災害対応については各組織で議論するものとして、本協議会及びDIA支援システムはそれを支援するものであればよいと考える。

<香川県土木局>

- ・応急復旧の優先順位検討に、緊急輸送道路のデータを活用したいと考える。

<会長>

- ・意見をいただければ、順次システムに反映していきたい。

<香川県危機管理総局>

- ・地域ごとの重要度と災害発生時の被害様相の関係を整理できれば、災害対応の迅速化につながるかと考える。

<会長>

- ・災害事象、被害事象の双方を考える場合、原則としてBCPでは被害事象をスタートとする。

<気象庁>

- ・報告として、気象庁においては、海溝型地震対応のBCP訓練を実施中である。第1段階、第2段階では、被害想定、イメージトレーニングと管所官署間の通信訓練を実施した。次回実施予定の第3段階では、現業で通信手段の途絶を想定した訓練とする予定である。

<会長>

- ・気象庁は、災害気象情報、地理空間情報等で、最も早期に情報共有が必要となる。ぜひシステムへのご意見もいただきたい。

<国土地理院>

- ・インパクト分析で使用されている国土数値情報の社会基盤のデータが多いと、復旧段階等でも活用できてよい。ソースとして各市町村のハザードマップが利用可能であると思う。

<四国運輸局>

- ・DIA支援システムに対し、物流拠点データを提供可能である。
- ・必要な情報を組み込むとともに、表示方法についても大量の情報が掲載されている中で必要な情報が直ぐに判るよう工夫する必要がある。

<四国地方整備局防災課>

- ・ノードは資産価値を持つものであるが、復旧コストも併せて検討に組み込んでいただきたい。
- ・高松市でモデル地区検討を実施すると思うが、市外との繋がりについても、市外の被害をどのように設定するかも含め、検討いただきたい。

<会長>

- ・復旧コストの数値化についても可能かどうか、検討する。

<四国厚生支局>

- ・システムの内容について、もう少し明らかになった段階で確認したい。

<会長>

- ・次回の検討会では、被災箇所や病院までのアクセス時間等も含め、具体的に内容を示せると考えられる。

<四国総合通信局>

- ・現在、8/29に公表された内閣府の被害想定に基づき、防災行政無線の被害想定を実施し、各自治体等に対策の検討依頼をしている段階である。

<四国総合通信局>

- ・システムの概要と各機関からの要望を反映したシステムとしていただきたい。

<会長>

- ・相互に情報交換しながら進める。

4. 今後の予定

香川大学危機管理研究センター 磯打特命准教授より今後の予定について、説明があった。

- ・第4回協議会の日程は、3月上旬を候補として調整の上、案内する。

以上